



第23回九州ミッドシニア選手権競技 第38回九州グランドシニア選手権競技

競技報告 (2016/ 10. 5- 6)

写真と記事 : M. Kikutake

Mシニアは

武田幸一 (麻生飯塚) がプレーオフ制して初V

Gシニアは

千葉昌久 (大村湾) が初優勝

ミッド (M) シニア、グランド (G) シニアの両九州選手権は 10 月 6 日、長崎市琴海尾戸町、ペニンシュラオーナーズゴルフクラブ(ミッド 6579 ㌦、グランド 6183 ㌦=パー72) で行われ、Mシニアは 64 歳の武田幸一 (麻生飯塚) が 2 オーバーの 74 で並んだ 4 人によるプレーオフを制して初優勝した。

Gシニアは 70 歳の千葉昌久 (大村湾) がイーブンパーの 72 で初優勝した。



(C)GUK

(写真は㊦グランドシニア優勝の千葉昌久、㊥ミッドシニア優勝の武田幸一の両選手)



(C)GUK

台風 18 号来襲

前週のシニア選手権に続き競技を 18HS に短縮

競技は 5~6 日の 2 日間行われる予定だったが、台風 18 号の通過に伴う暴風雨で 5 日の競技が中止となり、6 日の全員による 18 ホールストロークプレーに短縮して実施された。競技短縮は前週の第 46 回九州シニア選手権に続くもので、異例の事態になった。

Mシニアのプレーオフは 2 オーバーの 74 で並んだ 4 人

武田は 2 ホール目で勝利しシニア部門 2 冠に

台風一過の絶好のコンディション(晴れ、気温 28.1 度、南西の風 4 ㌦=正午現在)。短期決戦となった試合は白熱した戦いとなった。65 歳以上が出場資格(今年 12 月末現在)の Mシニアは 76 人(欠場 7 人)が出場。そんな中、

74 で回った武田のほか村川米蔵（八代、67 歳）、伊牟田寛見（チェリー鹿児島シーサイド、65 歳）、青木英樹（佐賀ロイヤル、65 歳）によるプレーオフとなったが、まず 1 ホール目にダブルボギーを打った青木が脱落。2 ホール目はパーの武田がボギー以上の村川、伊牟田に競り勝ち、勝利を手にした。

武田は 2009 年の第 39 回九州シニア選手権で優勝しており、シニア 3 部門のうちの 2 部門を制した。

1 打差、75 の 5 位タイは三原由紀夫（佐賀、65 歳）と大橋久美男（九州小岱山、65 歳）の 2 人。前々回優勝の上木政章（志摩シーサイド、69 歳）は 5 オーバーの 10 位タイ、前年優勝の近藤正耿（北九州、66 歳）は 9 オーバーの 35 位タイだった。

Gシニアの千葉はパープレーでの栄冠

尾藤牧衛（島原、77 歳）が 76 のスコアでエージシュート達成

70 歳以上の Gシニアは 71 人（欠場 9 人）が出場。千葉はインスタートの 10 番でバーディー。後半の 2、3 番で連続ボギーを打ったが、4 番バーディーでスコアを戻し、その後も崩れることなく、手堅いゴルフを見せた。1 打差の 2 位は今村広巳（佐賀、70 歳）と前年優勝の大川重信（小郡、71 歳）の 2 人。さらに 1 打差の 4 位タイに中島好巳（チェリー鹿児島シーサイド 70 歳）、清水正征（かほ、71 歳）、鳥越文彦（大博多、70 歳）の 3 人が入り、77 歳の尾藤牧衛（島原）が 76 で回ってエージシュートを達成し、9 位タイになった。

Mシニア 25 人、Gシニア 10 人が日本選手権への出場権を獲得

この試合の結果、第 23 回日本ミッドシニア選手権（11 月 1 2 日・岐阜県、愛岐 C C 中・東コース）は 17 位タイまでの 21 人と、22 位タイの 8 人のうちマッチングスコアカードで選ばれた 4 人の計 25 人が出場権。また、第 23 回日本グランドシニア選手権（11 月 10～11 日・三重県、スリーレイクス C C）は 7 位タイまでの 8 人と、9 位タイの 4 人のうち 2 人の計 10 人が出場有資格者となった。



「普段通りを心掛けて」ミッドシニア初優勝の武田

次は同じミッドでも九州ミッドアマへ挑戦

台風 18 号の影響で初日のラウンドがキャンセル。6 日の 18 ホールストロークプレーによる「一発勝負」となったが、実力者がそろうだけに、プレーオフでの決着は十分に予想された。

2 オーバーの 74 で並んだ 4 人。まず 1 ホール目の 18 番（パー 4）で青木が脱落した。残り 3 人。舞台は 9 番（パー 5）に移ったが、左サイドの木がスタイミーになって第 3 打でクリーンにグリーンが狙えなかった伊牟田は、グリーンをオーバーさせた。村川は第 2 打のショットミスでこれも 4 オン。これに対し武田は第 1 打で危うく右サイドの池へはまりそうになったものの、ラフからうまくリカバリーしてピン左 13 呎に 3 オンに成功した。これを 2 パットで沈めてパー。ボギーの伊牟田、村川に競り勝った。

武田は 55 歳以上が参加資格の九州シニア選手権も 2009 年大会で制している。11 月の誕生日が来ると 65 歳になる Mシニアのルーキー。年々体力が衰えていく世代だけに、「早いうちに勝つ」というのが鉄則だが、「勝ててよかった」と喜んだ。

今季は「手首が痛いし、肩も痛い。予選もやっと通った」という九



(C)GUK

州大会。しかし、過去、プレーオフは3戦して負けなし。そんな自信にも裏打ちされたのか、1日だけの勝負になった大会で、「だからと言って考えすぎず、普段通りのゴルフを心掛けたのが良かった」という4度目のプレーオフ制覇だった。

会社勤め時代の20代でクラブを握り、30歳ごろから競技志向に。日本アマにも3回出場しており、その実力は中堅として認められていた。現在は夫人(59)と農業を営み、稲刈りも済ませてこの大会に挑んだ。

九州を制しての日本ミッドシニア。目標を聞くと「5位以内ぐらいは」と欲がない。「それよりも」と言うのが、門司GCで開かれる25歳以上の九州ミッドアマチュア選手権(10月19~20日)。地区予選を通過して出場権を得ており、「大好きなコースだから、気合を入れたい」と言う65歳だった。(写真はプレーオフでウイニングパットを沈める武田幸一選手)

グランドシニア優勝の千葉 「女房孝行ができる」と破顔



「1日競技(18ホール)だから、ちょっとしたミスが命取りになる。勝ててよかった」とこちらも勝利を喜んだ千葉昌久だった。

「台風で競技が短縮になったが、すべてがいい方に転がった」と振り返る。10番(パー4)で残り140ヤードを7番アイアンで1打につけて沈め、バーディスタート。以後、スコアカード通りの我慢のゴルフになり、折り返しての2、3番で連続ボギー。しかし、それでキレルことなく4番で取り返してのパープレーだった。「雨でグリーンが柔らかくなっていて、パッティングが良かった」と言う。

今大会の目標は「75以内のスコアで、10位以内」と据えていたそうだ。というのも、夫人の千雪さん(61)との約束があり、「女房を連れてジャパン出場」と言うのが目標だ

ったのだ。それが、目標を上回る優勝してのジャパン(日本選手権)に笑顔も溢れた。

その日本グランドシニアだが、このクラスの九州勢は強い。昨年は安河正彰(ミッションバレー)が制し、これにシニアの日本選手権3部門の3冠を目指す大川も控える。千葉は昨年は九州4位で出場して16位タイ。シード権をとれなかった。今年は「何とかシード権を」と千葉だが、もちろんチャンスが来ればその上を狙っていくのは当然だろう。(写真はドライバーショットの千葉昌久選手)

シニア日本3部門制覇にける大川重信

「昨年は背中を痛めて満足にスイングもできず、(日本グランドシニアは)不本意な成績だった。今年は週一でケアに通い、調子は上向きになっている。戦える身体になってきたので、手ごたえも感じている」